

学力向上と NIE

～読解力向上の取り組みを通して～

日南市立油津小学校

教諭 福島 和馬

1 はじめに

(1) 学校の概要

日南市は、宮崎県南部に位置し、温暖な気候である。油津小学校は、自然豊かで港近くの学校として、140年以上の歴史ある学校である。油津小学校では、現在、1人1台のタブレット端末を活用しながら学力向上に取り組んでいる。毎年の学力テストでは、基礎、応用ともに全国平均を下回り、課題が多くある。そんな中、令和3年9月からNIEの取り組みを始めた。一言でNIEと言っても、新聞の活用法は、多種多様で幅広く、どの分野で取り組みを行うか考えた結果、本校の課題である学力向上に行き着いた。

(2) 学校の目指す生徒の姿

油津小学校では、学校や地域の伝統・歴史・文化を学校のよさとして捉え、「導き、見守り、見届ける教育」を推進することで心豊かでたくましく、自ら学ぶ油津健児の育成を学校の教育目標としている。具体的な目指す児童像として、「よく考える子、人を大切にする子、きまりを守る子、元気のよい子」を掲げている。

(3) 学校におけるこれまでのNIE活動

本校では、上述のように、学力向上が喫緊の課題である。そこで考えたのが、国語科を中心とした取り組みである。その中でも特に読解力について焦点をあてた。いうまでもなく、読解力は、生涯に渡って必要な力であり、各教科とも関連する能力である。極端な言い方になるが、ペーパーテストにおいて、読解力がなければ問題の内容すら分からず、正答へとたどり着くのは到底困難なことである。私は、読解力を3つの力に分けて考えた。1つは、音読力、2つ目に、語彙力、3つ目に要約力である。これら3つの力を向上させるべく新聞コラムを活用した取り組みを考えた。取り組みは、令和5年9月から行い、対象学年は、主に5年生である。国語科の時間を活用し、毎日実践を重ねていった。

2 実践の内容

(1) 新聞記事の要約による読解力向上の取り組み（5年生）

ア 記事の選定

全5社の新聞記事を読み比べ、児童にとって読み易く、地域の出来事も知ることができる宮日新聞のくろしおの欄を活用することとした。

イ 記事の音読

音読の効果については、脳の前頭葉の働きを活発にすることが分かっている。また、音読が速くなると当然のこととして黙読も速くなり、読解力向上には欠かせないスキルが身に付くと考えた。くろしおの欄は、1つの記事に約580文字ある。その記事を読むのに要する時間が、平均で190秒くらいであった。これまでの取組から目標時間を90秒として取り組んだ。



ウ 記事の要約

くろしおの記事580文字を100文字に要約する活動を行った。最初の3回は、模範解答を示し、要約のポイントを指導した。タブレットを活用することで時間の短縮化を図った。初めの内は、1～2人程度しかできなかった要約も、3ヶ月後には7割ができるようになった。



エ 語彙力の向上

語彙力を高めるため、記事の中の難しい言葉に説明を入れることをした。要約のポイントの説明する際、語彙についても簡単に説明し、少しでも語彙力が高められるように取り組んだ。語彙の説明については、読む文字数が多くなり過ぎないように注意した。継続した取り組みで語彙力の向上をねらった。

(2) 新聞4コマ漫画による語彙力、表現力向上の取り組み（1～4年生）

ア 記事の選定

5社の4コマ漫画を読み比べ、児童にとって易しい内容のものを選定した。

イ 言葉選び

主に、4コマ目にくる吹き出しに空欄を設け、そこに入る言葉について考えさせた。低学年は、自分で考えるのは難しいため3択問題とした。4コマ全体の流れを捉え、コマの前後から言葉を推測させる。この活動を通して、会話や背景など様々な部分から総合的に適切な言葉を判断する力がつくと考えた。適切な言葉を考える活動を通して、語彙力だけではなく、構成力や表現力など様々な力がつくと考えた。

(3) 理科掲示板の活用

ア 記事の選定

4年以上を対象に、ある程度理解できる記事を選び、理科学習に関係のある記事を掲示した。

イ 掲示の工夫

タイムリーな話題や興味関心を高めるような内容を掲示し、読み方が難しい漢字には振り仮名を付けた。分かりやすい見出しをつけたり、補足の資料をつけたりするなどできるだけ下学年にも分かりやすいように掲示を工夫した。

ウ 理科学習との関連

天気や月の学習単元の時には、その内容にあった記事を掲載することで学習内容に興味関心をもたせながら、学習内容を深めることもできた。理科の学習は生活に密接に関連しているところもあるのでできるだけ身近な話題を掲示するように心がけ、時には、理科の学習の中でも取り扱うようにした。



(4) その他の取組

ア 新聞記事の紹介

本校の児童や職員が新聞に掲載された時には、全クラスにコピーを配布したり、校長室横の掲示板に貼り出したりして児童や職員、来客者に紹介した。新聞掲載は、子ども達の良い目標となり、学習の意欲を引き出すことにも繋がった。また、新聞に掲載された児童は、校長室に呼び出されるなどあらゆる所で賞賛され、学校全体にも良い効果を与えた。

イ N I Eコーナーの設置

今年度は、5・6年生の廊下にN I Eコーナーを設置した。その日の新聞と過去1週間分の新聞を置いて、いつでも自由に読めるようにした。児童は、朝の読書の時間や昼休みなどそれぞれが手に取って新聞を読んでいた。



ウ 新聞広告の活用

新聞広告は、企業の独自性とインパクト、メッセージ性などあらゆる要素を含んだ物である。広告を通して様々な企業があることを知ることとはそのままキャリア教育へと繋がる。また、それぞれの企業が努力していることやこれらからの日本や自分の生き方を考える上で良い



きっかけを与えることも考えられる。さらには、広告で使われている言葉や写真は、表現力を身に付ける上でも活用できる。このように新聞広告を取り扱うことは様々な付加価値がある。右上の写真は、油津の魅力を伝えるために児童が作成した油津にある津ノ峯という山を紹介した広告である。「頂上からの自撮りが盛れるっちゃが〜」の言葉は、新聞広告を参考にしながら、考えに考え抜いた言葉だった。

3 成果と課題

(1) 成果

- 新聞記事の要約による読解力向上の取り組みについては、回数を重ねるごとに音読の速さ、要約の速さ、内容が向上した。
- 新聞4コマの取り組みについては、児童は、楽しく活動でき、その中でも言葉を吟味し、言葉について考える習慣を身に付けることができた。
- 新聞掲示の取り組みについては、児童が時事問題などについて関心をもち、自分達の生活や学習内容について深く考えることができた。
- 新聞や記事紹介、新聞広告の活用を通して、学習意欲を高めたり、記事への興味関心を高めるなどの効果があり、言葉や写真などの表現にもこだわりを見せる児童が増えた。

(2) 課題

- 今後も継続した取り組みによって、何がどのように変化したのか数値やアンケートによってエビデンスをしっかりとする必要がある。
- 本校だけではなく、他の学校へも啓発できるようにするためのシステムや実践方法の在り方を模索する必要がある。